・IP(Internet Protocol)→相手先のアドレス情報をもとにして、パケットを送信する機能

・IPヘッダ→IPアドレスが格納されているヘッダ

・ICMP(Internet Control Massage Protocol)→IP通信の疎通状態を調査したり、正常に通信できない場合に送信元ホストへエラーを返したりする、IP通信を補佐するためのプロトコル

・ICMPメッセージ→タイプとコードの種類によって、通信状況やエラーの通知などを識別できるもの

・IPアドレス→ネットワーク上で、PCやルータなどの機器の場所を特定するために使用されるネットワーク層の識別子のこと

・オクテット→８ビッごとの単位のこと

・ネットワーク部→IPアドレスのネットワークを識別する部分

・ホスト部→IPアドレスのネットワーク上のホスト（PC、ルータなどのネットワーク機器）  
を識別する部分

・クラス→ネットワーク部とホスト部の境界をアドレスの範囲で決めている考え方

・プライベートIPアドレス→IPアドレスの社内や家庭内で利用されているもの

・グローバルIPアドレス→IPアドレスのインターネット上で利用されるもの

・ネットワークアドレス→ホスト部のビットがすべて０のアドレスで、ネットワーク自体を指す。そのネットワークの先頭のアドレス

・ブロードキャストアドレス→ホスト部のビットがすべて１のアドレスで、同一ネットワーク上に接続

・ループバックアドレス→特殊なIPv6アドレスの１つで、自分自身を表すアドレス

・サブネット→大きなネットワークの中にある小さなネットワーク

・サブネットマスク→IPアドレスのどの部分がネットワーク部で、どの部分がホスト部かを示す情報

・プレフィックス表記→IPアドレスの表記方法で、IPアドレスとサブネットマスクを同時に表現するかきかたのこと

・デフォルトゲートウェイ→自分がいるネットワークの出入り口

・IPv6→IPv4の改良版で、OSI参照モデルのネットワーク層のプロトコル

・サブネットプレフィックス→IPv6アドレスのネットワークを表す部分

・インターフェイスID→IPv6アドレスのホストを表す部分

・ルータ→異なるネットワーク間で、橋渡しを行う中継役をしている機器

・ルーティングテーブル→パケットの転送先を判断するためのもの

・ネクストホップ→宛先に向かうために経由する隣接している次のルータ

・ARPテーブル→ARPで使われるIPアドレスとMACアドレスの対応を保存する場所

・ARP→IPアドレスからMACアドレスを調べるためのプロトコル

・コアルータ→通信キャリアやISPネットワークの通信を中継するために利用されるルータ

・センタールータ→企業の拠点間WANネットワークで本社拠点、データセンタ等、企業で中心的に利用されるネットワークを接続するために利用されるルータ

・エッジルータ→企業の拠点WANネットワークで死者や営業所等の拠点ネットワークを接続するために利用されるルータ

・ブロードバンドルータ→家庭などで、ISPのブロードバンド回線を通じてインターネットなどを利用する際に用いるルータ

・ルーティング→ネットワーク層の役割において、目的の場所までのルートを選択すること

・直接接続→接続したいデバイスを普段使用しているネットワークに参加させずに直接接続する方法

・スタティックルーティング→管理者がルーティングテーブルにルート情報を手動で登録する方法

・ダイナミックルーティング→ルータ同士がルーティングテーブルの作成に必要な情報を自動でやり取りすること

・ディスタンスベクタ型→互いのルーティングテーブルの情報を交換する方式

・リンクステート型→それぞれのルータが自身のインターフェイスの情報を交換する方式

・ハイブリッド型→ルーティングプロトコルのタイプの1つで、対象プロトコルはEIGRPがある。ディスタンスベクタ型とリンクステート型の両方の機能を実行する

・コネクション型通信→データ通信において、通信を開始する前に相手との間で仮想的な専用通信路（コネクション）を確立し、それを通じてデータの送受信を行う方式

・ACK→TCPで信頼性を確保するために、必ず返すようになっている確認応答のこと

・コネクションレス型通信→相手との接続（コネクション）確立を行わずデータを送信する方式

・TCP→データの信頼性を保証するプロトコル

・スリーウェイハンドシェイク→アプリケーション層でIPネットワーク上でTCPによる接続（コネクション）を確立するための手順

・Telnet→アプリケーション層で距離の離れた危機に接続し、リモートからの操作を可能にするプロトコル

・HTTP→アプリケーション層でインターネット上のwebサイトを閲覧する際にサーバとクライアント間の通信で利用されるプロトコル

・FTP→アプリケーション層でファイル転送に利用されるプロトコル

・SMTP→アプリケーション層でメールの送信に利用されるプロトコル

・TCPヘッダ→TCPパケットの先頭部分にある、制御情報などを一定の形式で記述した領域

・UDP→トランスポート層で通信速度を重視し、エラーの検出やデータの再送などは行わないプロトコル

・RTP→TCP/IPネットワーク上で、音声や動画のように連続するデータをリアルタイムで伝送するためのプロトコル

・RTCP→RTPなどを用いてデータをリアルタイムで伝送する際に、送受信制御などを行うプロトコル

・DHCP→IPv4ネットワーク上において通信用の基本的な設定を自動的に行うためのプロトコル

・TFTP→IPネットワーク上で、ファイル転送を行うためのプロトコルの1つ

・RIP→IPネットワーク上で用いられるルーティングプロトコルの1つで、ルータなどの通信機器の間で経路情報を交換し、ある地点から別地点までの最短経路を割り出すのに使われる

・UDPヘッダ→UDPで通信するときに付加されるヘッダ